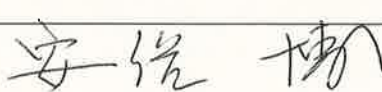



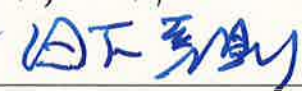



学位論文審査の結果の要旨

※ 整理番号		ふりがな 氏 名	ふじもと あきら 藤本 昭
学位論文題目	Relationships between estimation errors and falls in healthy aged dwellers (地域に在住する健常な高齢者における運動機能の自己認識誤差と転倒との関連について)		
審査委員	主査 安倍 博   副査 菊田 健一郎   副査 日下 幸則  		
<p>高齢者の転倒リスクにつき、どの測定項目が最も適切に転倒を予測する指標になるかどうかを横断的並びに縦断的調査によって明らかにすることを目的とした。</p> <p>地域在住の健常高齢者 174 名をまず断面的に属性や 6 種類の運動機能テスト、更に各運動機能テストでのそれぞれの身体機能認識誤差 (EE) を調べた。そして過去 1 年の転倒経験から転倒群と非転倒群に分類し、両群で前記の調査結果を比較し、転倒に関連する要因を求めた。更に、断面調査で非転倒群であった高齢者を 1 年後に追跡調査し、同様な方法で転倒に最も関連する要因を抽出した。それにより、以下のような結果が得られた。</p> <p>1. 断面調査：過去 1 年間で転倒経験者は 33 名、非経験者は 141 名であり、転倒群は非転倒群に比べて年齢が有意に高く、1 週間の外出頻度は有意に少なかった。各運動機能テストの比較では、片脚立位 (OLS) 及び最大歩幅 (MSL) が転倒群で有意に低値を示した。EE 値の比較では、転倒群は OLS、Timed Up and Go Test (TUG)、及び MSL で非転倒群と比較して有意に高く、自己の能力を過大評価していた。ロジスティック分析の結果、TUG の EE 値 (オッズ比: 1.26) と MSL の EE 値 (オッズ比: 1.081) が転倒予測因子として抽出された。ROC 曲線下面積は、TUG の EE 値が 0.648、MSL の EE 値が 0.750 であり、MSL の EE 値の方が高値を示した。また MSL の EE 値での ROC 曲線から最適なカットオフ値は 2.0 cm と判断された。(感度 32.8%、特異度 91.1%)</p> <p>2. 追跡調査：1 年後に、141 名中 11 名 (7.8%) が転倒を経験しており、ロジスティック分析では再度、MSL の EE 値 (オッズ比: 1.06)、そしてもう一つ TUG (オッズ比: 1.89) が転倒予測因子として抽出された。また、MSL の EE 値のカットオフ値を基準に 2 群に分類した転倒発生につき、カットオフ値よりも高値を示した群で 49 名中 10 名 (20.4%)、低値を示した群で 92 名中 1 名 (1%) と転倒発生率に有意な差が認められ ($\chi^2=16.593$, $p=0.000$)、その相対危険度は 18.78 を示した。</p> <p>今回の調査により運動機能が良好であっても転倒を経験する高齢者が存在していることが判明した。転倒経験者は自己の運動能力を過大評価しており、特に MSL の EE 値は断面調査でも追跡調査でも繰り返し、転倒予測因子として抽出されていた。またそのカットオフ値は 2.0 cm であり、その相対危険度は 18.78 ときわめて高い値であった。これにより、MSL の EE 値は健常高齢者に対して最も適切に転倒を予測する指標であることが示唆された。</p> <p>MSL の EE 値は最適な転倒予測指標の 1 つであることがこれまでで初めて示唆された。これを活用することは健常高齢者に対する早期からの効果的な介護予防事業の一助となり、社会貢献が期待できる。</p> <p>以上のことから本学学位論文として十分価値があるものと判断した。</p>			

(平成 26 年 12 月 24 日)

最終試験の結果の要旨

※ 整理番号		ふりがな 氏 名	ふじもと あきら 藤本 昭
学位論文題目	Relationships between estimation errors and falls in healthy aged dwellers (地域に在住する健常な高齢者における運動機能の自己認識誤差と転倒との関連について)		
審査委員	主査 安倍 博 安倍 博 副査 菊田 健一郎 菊田 健一郎 副査 日下 幸則 日下 幸則		
上記の者に対し、 口頭 により、学位論文を中心とした関連分野について試問 筆 答 合格 を行った結果 合格 と判定した。 不合格			
(平成 26 年 12 月 24 日)			